

平成30年度 月島第二小学校外部評価報告書

評価委員：委員長 三嶋竜 副委員長 南雲セエ子、委員 鈴木英二郎、角山良敬、小西幸子、則武一光、嶋田泰次郎、村上公一、藤枝 精治

作成者：森本 眞美（副校長）

評価時期 平成31年2月

1 重点目標の評価

重点目標1について

「へんじ・あいさつ・あとしまつ」 礼儀正しい子どもを育てる

「へんじ・あいさつ・あとしまつ」をキーワードにした礼儀正しい子どもの育成に、取り組んでいることがとてもよいという評価をいただいた。教育目標である「心の豊かな子ども」に向けた手だてにもつながる。このような地域の方からの「礼儀正しい子ども」を育てることにおける理解や、肯定的な評価はありがたい。学校内に限らず、子ども自身が、地域の方との挨拶やコミュニケーションを図ることへの励行は、今後も学校内でも続けていくようにする。

重点目標2について

「勉強を教えてくれるから、学校が好き」 確かな学力の向上を図る

「放課後さんすう塾」で、基礎的・基本的な学習内容を繰り返し指導した結果、基礎学力の向上につながっている。児童や保護者の算数科少人数指導への取組のアンケート結果の肯定的な評価の高さについても、「よい」という評価をいただいた。また、今年度の校内研究である「授業におけるユニバーサルデザイン化」に対する取組においても、どの子にも分かる授業を目指すことが大切であることや、基礎・基本の定着につながる取組であることが確認できる場となり、評価委員から、本校の取組への肯定的評価をいただいた。

引き続き、算数科を中心に基礎的・基本的な学習内容の定着を目指すとともに、校内研究である「授業におけるユニバーサルデザイン化」を推進し、全ての授業における授業改善に取り組んでいく。

重点目標3について

「健康・体力づくり」と「特色ある教育活動の充実」

「体力向上」については、マイスクールスポーツである「なわとび」の取組に対し、よりよい実践であることの評価をいただいた。今後も運動に親しみ、体力の向上を図る取組を「一輪車」の取組と合わせて工夫し実践していくようにする。また、オリンピックパラリンピック教育の中でもどのように生かしていくかを検討していくようにする。

2 今後の改善に向けた意見

- ・場に応じたあいさつができるように、学校、保護者、地域が共通理解のもと、一体となって行っていくとよい。
- ・家庭での学習習慣の確立、学校でのフォローアップ指導、地域人材の活用など、基礎・基本の学習内容が確実に定着するように協力体制を整える。
- ・家庭での教育力を保護者が身に付けることも大切である。

- ・教員の自己評価にある、教師・児童相互の関わりを重視し推進してほしい。

3 その他の意見

- ・学校の年間の行事予定は、地域の行事ともできる限り連携したものであってほしい。
- ・幼稚園と学校の連携を取り合う教育活動であってほしい。
- ・学校が、児童、保護者のアンケートや評価委員からのアンケートを基に、学校改善を図っていることを広く知らせていくことを今後も行ってもらいたい。